# 

### ◆連絡先:高松市番町一丁目8番15号 平成27年度 教職員のための平和教育講演会

平成28年1月6日(水)、高松市役所114会議室 において、「教職員のための平和教育講演会」を開 催しました。

今回は、高松空襲を記録する会の岡田昌子氏を講 師に迎え、「戦後70年と高松空襲」と題してご講演 いただきました。また、人権啓発課・平和記念係で 小・中学校向けに貸出ししているパワーポイント データ「核兵器のない平和な世界をめざして」等の 学習例を紹介しました。

講演の中で岡田さんは、国民学校での教育につい て、「ドレミ…」は敵国語として禁止され、代わり に「ハニホ…」を使ったこと、和音はB29などの敵 機の爆音を聞き分けるのに利用されたことなどお話 しされました。教科書や先生の教えを少しも疑うこ



◆編集·発行:高松市 人権啓発課 平和記念係

TEL: 087-839-2293 FAX: 087-839-2291

空襲体験談をお話し中の岡田さん

となく素直に信じ、軍国少女として育ったという岡田さん。教育の大切さとその影響力の 怖さについてのお話に、教員の皆さんは真剣に聴き入っていました。

また、1972年に「高松空襲を記録する会」を発足し、高松空襲での死者1,359人の一



人一人について、住所・氏名のほか、死因と死 亡場所を記した死者名簿を作成した際には、6 人の仲間で週末を利用して作業に当たったこと など、当時のご苦労についてもお話しいただき ました。

「高松空襲で無念の死を遂げた方たちへ何か してあげたい」という強い思いとともに、平和 の意味、そして命の尊さについて子どもたちに しっかり教えて欲しいという、岡田さんの切実 な願いが伝わってくる講演会でした。

# 教職員のための平和教育講演会の感想

さまざまな資料をもとに事実を客観的に知る機会となった。ここまで調べて整理されるのは大変なご苦労があったことと思われる。二度と戦争を繰り返さないために、自分はどう生きていけばよいのか問われた気がする。

(50歳代 女性)

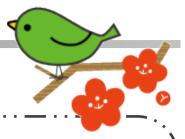
岡田さんが何度もおっしゃったように、この平和な時代がずっと続いて欲しいと思った。そのためには、これから日本を背負っていく子どもたちに戦争の恐ろしさ、悲惨さ、命や平和の大切さを伝えていきたい。

(50歳代 男性)

実際に体験された人でなくては知らないこと、感じないことをリアルに語っていただき、大変勉強になりました。 現在の平和な毎日があるのは戦争を経験された先輩方があってこそということを忘れず、日々大切に生きていかなければならないと思いました。

(20歳代 女性)





自分はもちろんのこと、家族にも戦争を経験している人がほとんどいないので、語り継いだり、子どもたちに伝えたりすることがいかに大切か改めて考えさせられた。「過去の経験を振り返ること」これからの日本に必要なことだけど、これらを子どもたちに教える責任が私たちにあるのだと感じた。

(20歳代 女性)



パネルや国民服などの貸出しセットを展示

戦後70年以上経過している現在が、これからもずっと戦後と言えるように、私たちが守っていかなければならないと思いました。戦争体験を語り継ぐことで、平和ということをより意識した生活ができると思います。直接体験者の方から話を聞く機会を大切にし、子どもたちの教育へ生かしていきたいと思います。 (40歳代 女性)

アンケートにご協力いただき、 ありがとうございました。





# 収蔵品の虫干し作業

平和記念係では一年に一度、収蔵品の虫干し作業を行っています。今年は11月17日から10日ほどかけて、収蔵品の虫干し作業を行いました。

もんぺや軍服といった衣類のほか、帽子や靴などの布・革製品、毛布などを収蔵ケースから出して一点一点に風を通し、防虫剤とともに再び収蔵ケースに収納します。高松市平和記念館が開館準備中のため、庵治支所の会議室や通路を利用し、300点以上の資料を広げ干している光景は、圧巻の一言でした。



靴やカバンの中には泥が付いたままのものもあり、戦後70年の時を越えて、ついこの間まで使われていたように感じられる資料もたくさんありました。







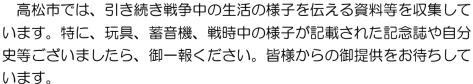
# 今後の行事予定

#### 高松市戦争遺品等収蔵品巡回展

【日時】平成28年2月10日(水)~16日(火)

【場所】国分寺ホール ロビー

# 探しています



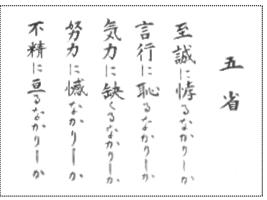
御寄贈いただいた資料は『戦争遺品展』等で展示するほか、一部貸出しもしておりますので、詳細は人権啓発課・平和記念係までお問い合わせください。





- きと
- 一、至誠に悖るなかりしか(真心に反していなかったか)
- 一、言行に恥ずるなかりしか(言行に不一致な点はなかったか)
- 一、気力に缺くるなかりしか(精神力は十分であったか)
- 一、努力に憾みなかりしか(十分に努力をしたか)
- 一、不精に亘るなかりしか(最後まで手を抜かなかったか)

五省とは、5つの反省という意味である。この 五省は、広島県江田島海軍兵学校において使用されていたもので「自戒」の言葉であった。昭和7年、海軍兵学校長である松下元少将の発案で、毎晩の自習終了後、その日の当番生徒がまず軍人勅諭五箇条を奉読、続いて五省の5項目を次々に問いかける。生徒たちは瞑想し、心の中で答えながらその日一日の自分の言動について自省自戒したのである。終戦により、陸海軍のあらゆるものが歴史の表舞台から消されたが、五省に関しては例外であった。米国海軍のウィリアム・マック中将



(提供者 浜 寛太 様)

が感銘を受け、アナポリス海軍兵学校に持ち帰り、現在でも教育に利用しているという。 また、海上自衛隊幹部候補生学校でも伝統を受け継ぎ、学生たちは兵学校時代と同じスタ イルで毎晩、五省により自分を省みて日々の修養に励んでいる。

参考文献「海軍兵学校教育と五省」左近允尚敏

## 収蔵品紹介50 ≪最近の収蔵品より≫

#### 【砲弾収納容器】 提供者 居森 善宣 様

提供者の祖父善志様の遺品。祖父は1937年に北朝鮮の清津に渡り、鉄工所を営んでいた。終戦後、ソウルを経由して群山港から北九州の八幡に命からがら帰国(1946.6.11)できた。その後、広島で日鐵の兵器処理、別府ではホテル開業、そして高松でも交通安全協会や防犯協会結成等に携わり常に前向きに生きた人である。砲弾容器をどこで入手したかは定かでないが、引揚時や移動の際に貴重品を入れるために使用したと聞いている。4個提供いただき、サイズは直径21㎝×高さ66㎝のものが2個、直径17.5㎝×高さ77㎝のものが1個、直径19.5㎝×高さ85㎝のものが1個である。



## 編集メモ



虫干し作業が無事に終わり、ホッとしました。壊れたり破れたりしているものもなく、寄贈いただいた当時のままの姿を目にし、貴重な資料を大切に保管しなければという思いをより一層強くした秋の一日でした。

▼ホームページアドレス(平和啓発の推進事業がご覧いただけます)

http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/18976.html